

# 「キャンドルのつどい研修」プログラム

国立江田島青少年交流の家

## 1 活動内容

燃える炎を見つめながらしみじみと語り合い、歌い、踊り、ゲームを楽しみながら、華やかで感動に満ちたときを過ごす。

## 2 活動のねらい

皆で炎を囲み、楽しみ、親睦を深める。  
協調性を高める。  
今日を反省し、明日への活力をつくる。

## 3 対象者

小学校5年生以上  
ただし、保護者又は責任の持てる引率者と組んで活動する場合は4年生以下も可能

## 4 研修人数及び研修場所

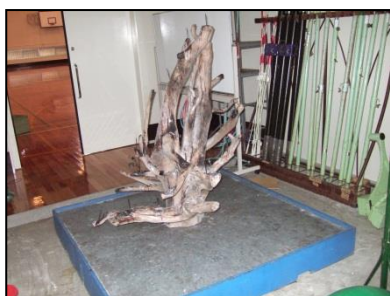
- (1) 体育館：最大200人
  - (2) 講堂：最大150人
  - (3) 武道館：最大100人
- ※いずれの場所も飲食は禁止。水分補給は可。

## 5 実施時期、研修時間

- (1) 実施時期 通年
  - (2) 研修時間 19時00分～21時00分
- ※8-(3)の作業を19時00分までにしておく。  
※後片付けは21時00分以降にしてもよい。

## 6 準備物

- (1) 個人：動きやすい服装、体育館シューズ（講堂の場合は不要）、飲み物（必要な場合）  
スタンプに使用するもの
- (2) 引率者：携帯電話
- (3) 団体：マッチ（チャッカマンなど）、小ろうそく（ボランティア棟1F売店 イシダスポーツでも販売 1箱約80本250円）  
武道館で実施の場合は懐中電灯（移動用）
- (4) 交流の家：教材室…コードリール、アンプ、ワイヤレスマイク、バケツ、ろう削り、大ろうそく  
各実施場所…大燭台、火の神用燭台、シート、放送設備（武道館は無し）  
※詳しい場所は5ページ参照



大燭台



火の神用燭台



ロウ削り

## 7 指導・安全管理

### (1) 指導者の配置・人数・役割分担

研修は、「キャンドルのつどい研修」プログラムをもとに、団体がキャンドルのつどいの指導・安全管理等を行う。

### (2) 引率者の配置・人数・役割分担

活動団体で次の役割を持たせる。(小規模の団体は担当を兼ねられる)

- ① 総括責任者 (全体の総括, 緊急時の連絡担当)・・・1名
- ② 指導担当者 (指導, 用具の準備, 安全管理)・・・1名以上
- ③ 監視担当者 (火の管理, 安全管理)・・・1名以上
- ④ 救護担当者 (健康観察・応急処置)・・・1名以上

### (3) 事故発生時の措置

緊急の場合は、総括責任者は携帯電話で交流の家に連絡を行う。

## 8 展開

### (1) 「物品利用希望書」の提出

必要事項を記入し、総括責任者が入所時に交流の家へ提出する。

### (2) 実施前

借用物品を事務室に借りにくる。

- ① 研修生の健康状態に十分配慮し、体調不良者はキャンドルのつどいをさせないことを説明する。団体から提出された「物品利用希望書」等の変更の有無を聴取し、変更がある場合は修正する。
- ② 「キャンドルのつどい研修」プログラムを基に、研修の実施方法、安全管理等を説明する。
- ③ 指導担当者は、事務室から必要に応じてコードリール、アンプ、ワイヤレスマイク、火の神衣装、バケツを受け取る。
- ④ 実施場所のコンセント等の確認をする。
- ⑤ 実施場所のシートを敷き、大燭台の設置を行う。(4ページ参照、大燭台は重いので注意。)
- ⑥ 大燭台に大ロウソクを立てる。
- ⑦ 火の神用燭台に大ロウソクを立てる。

### (3) 事前指導

集合場所：体育館、講堂で実施の場合・・・各実施場所

武道館で実施の場合・・・つどいの広場(ピロティ)

集合時刻：19:00

(指導担当者)

- ① グループ毎に整列させる。
- ② 救護担当者に健康観察をさせる。

(4) 指導担当者は目的, 注意事項を説明する。

〈注意事項〉

① けが, 体調が悪くなったら, 引率者に連絡する。

② できるだけシートや床にロウをたらしさない。

※講堂の床はじゅうたんなので特に注意する。

③ 武道館への移動は, 暗いので足元に気をつける。(溝に注意)

(5) キャンドルのつどい

(例)

第1部

① 入場

② 歌「遠き山に日は落ちて」

③ 火の神入場→火の神の言葉→点火

④ 歌「四季の歌」

⑤ 営火長のことば(火にまつわる話)

第2部

歌, スタンプ, ゲームなどで盛り上がる

第3部

① 歌「一日の終わり」

② 沈黙(黙って火を見つめる)

③ 誓いの言葉(各班代表, 各クラス代表など)

④ 営火長終わりの言葉

⑤ 歌「今日の日はさようなら」

⑥ 退場

※監視担当者は大燭台のロウソクの火が消えたらつける。

(6) 事後指導

(指導担当者)

① 救護担当者に健康観察をさせる。

② まとめをし, 解散する。

③ キャンドルのつどいの研修終了を交流の家へ報告するとともに, 借用物品の返却をする。

(7) 片付け

監視担当者は次の方法で片づけを行う。

① ロウソクを消火した後は, 水をためたバケツの中に入れ, 完全に消火する。

(完全に消火したら水を切り, 小ロウソクは持ち帰る。大ロウソクは所定の場所へ片付ける。)

② 床及びシートに落ちたロウをロウ削りですとる。

③ シート, 大燭台, 火の神用燭台, ロウ削り, 大ロウソクを所定の場所へ片付ける。

(8) 連絡先

一般電話番号

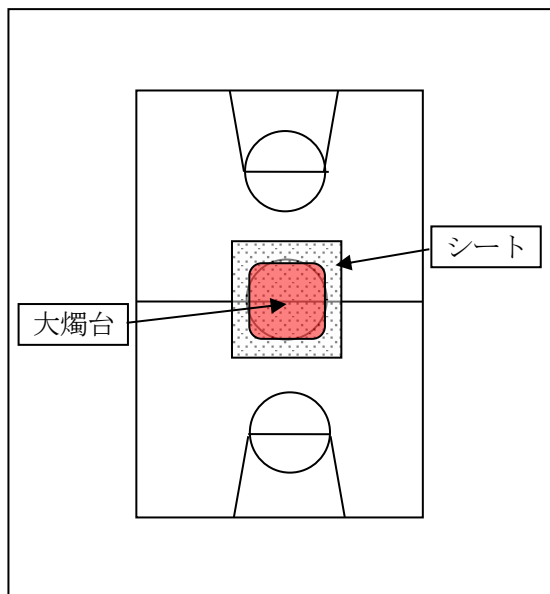
国立江田島青少年交流の家 TEL 0823-42-0663

TEL 0823-42-0660

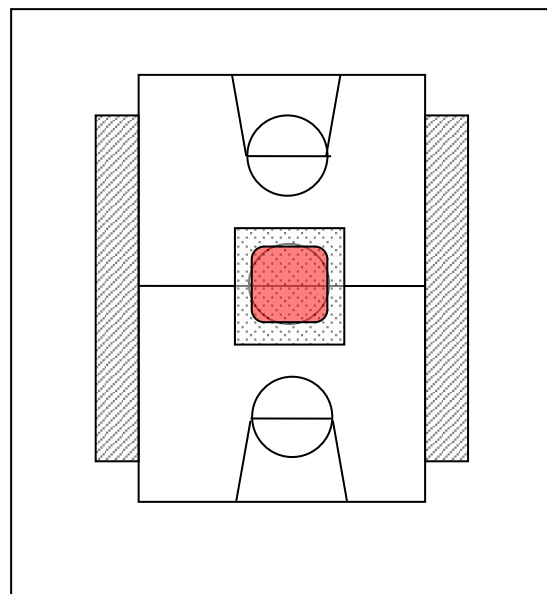
TEL 0823-42-0661

# シートの敷き方

## 体育館の場合

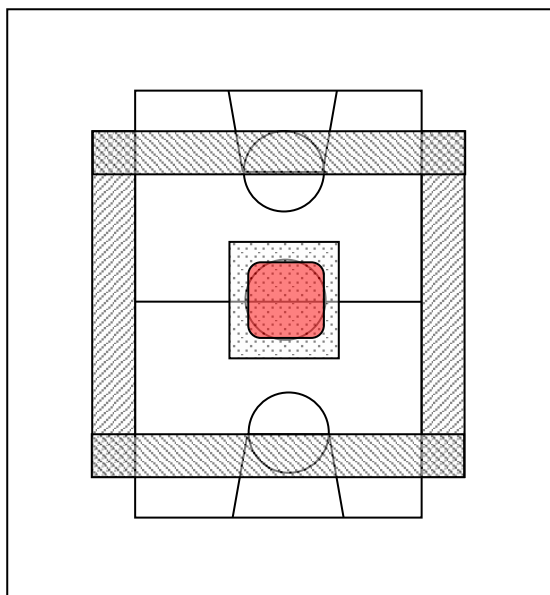


- ① バasketコートセンターサークル上に中央用シートを敷き、その上に大燭台を置く。

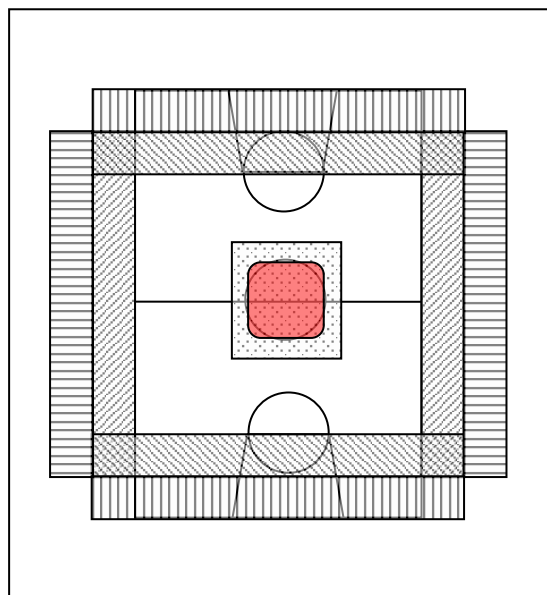


- ② バasketコートのサイドラインにシートの内側を合わせて敷く。

これは基本の形ですので、人数に応じて敷き方を変えることも可能です。  
火の神が歩く経路や研修生が立つ場所には必ずシートを敷いてください。



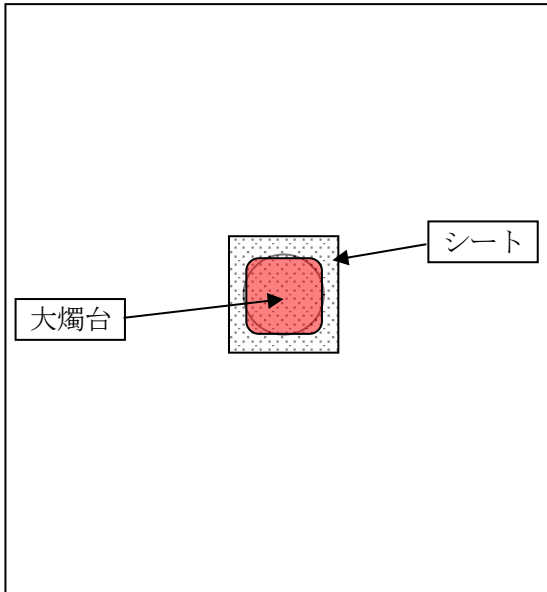
- ③ シートの角を合わせ、②と直角にシートを敷く。



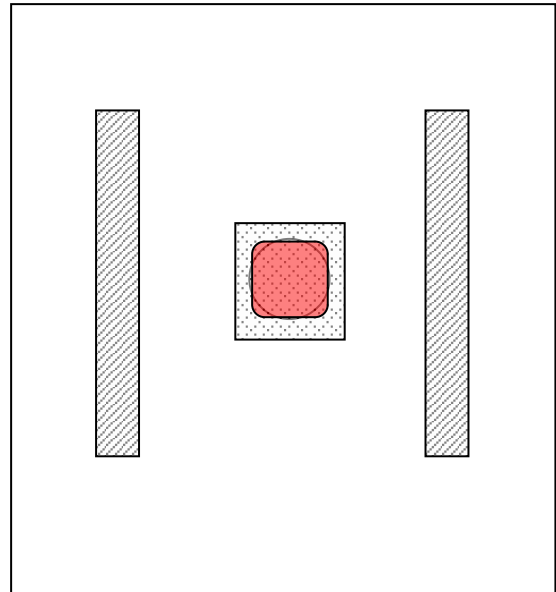
- ④ ②③の外側にシートを敷く

# シートの敷き方

## 講堂・武道館の場合

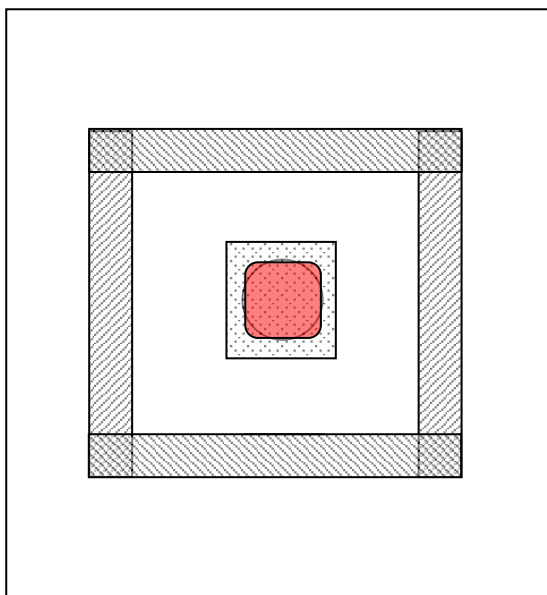


① 会場の中央にシートを敷き、その上に大燭台を置く。

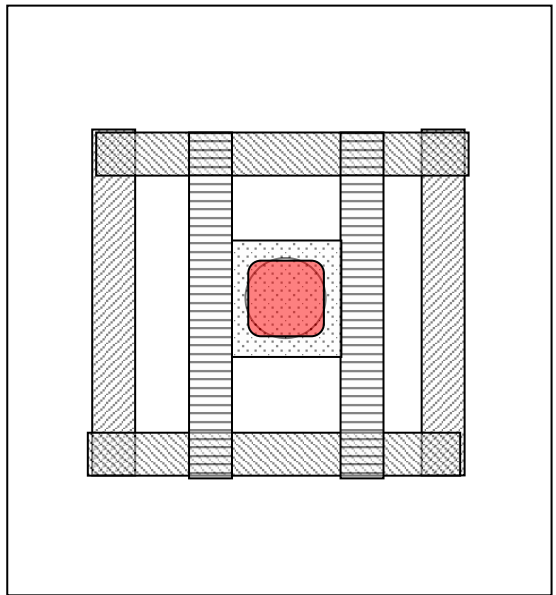


② 研修生が立つ位置にシートを敷いていく。

※講堂、武道館には目安となるラインがないため、目分量で敷く（内側のシートの端が重なるように）



③ シートの角を合わせ、②と直角にシートを敷く。



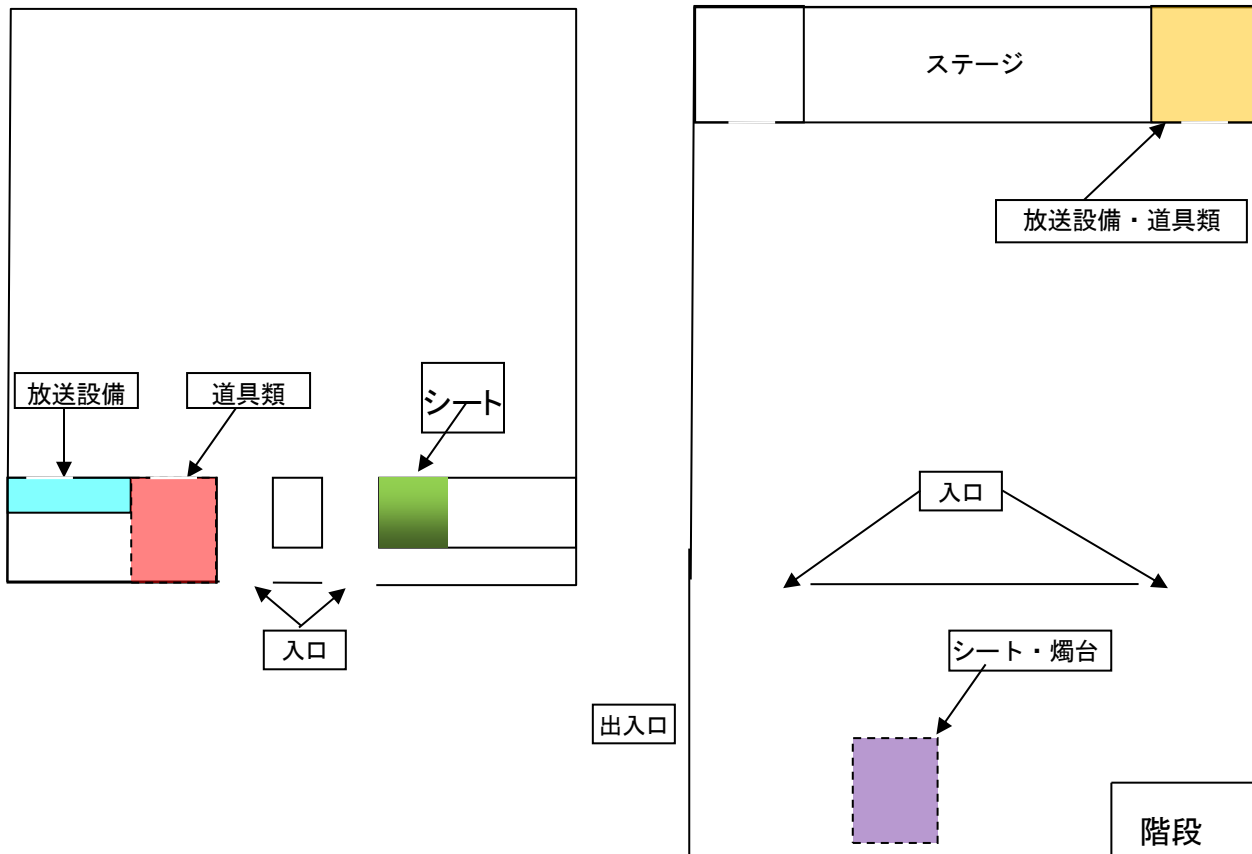
④ 火の神が歩く経路にもシートを敷く。

# 道具・放送設備の場所

体育館

講堂

道具類・シート



武道館

